市長／南島原市の公共施設は充実している方だと思いますが、確かに大きな体育館はありませんね。どちらにせよ、今の学校施設は十分に使える立派な施設ですが、今後加速度的に老朽化が進むのは間違いないので、県と相談しながらよい提案ができればと考えています。

　また、島鉄跡地問題のほか、小学校の統廃合が進めば、学校跡地の問題も出てきますから、よく考えないといけないと思っています。

緊張気味の２人。後半は徐々に笑顔になりました。

学校の統廃合

中島／学校の統廃合も難しい問題ですね。規模が小さすぎるのも問題ですが、小学生はランドセルで、近所の人にあいさつしながら通う、という文化を大事にしてほしいです。特に運動会は、小学校だけでなく、地域の運動会、ということころも少なくありませんから。

市長／特に小さい小学校はそうですね。松坂君が卒業した慈恩寺小学校の運動会は特に活発で、地域の温かさや人情味を強く感じます。

松坂／ありがとうございます。でも現実には複式学級も増えていて、どうかなとも思います。僕も１年間だけ複式学級を経験しましたが、雰囲気がずいぶん違います。よいところも多いのでしょうが、「複式学級が普通」という状態には疑問を感じます。施設など学校の維持費にもお金がかかりますしね。

市長／２人ともよく考えていますね。確かに子どもが少なすぎると、集団生活を学ぶことができなくなる可能性があります。わかりやすいところでは、授業で球技ができない、とか。慈恩寺小学校は、全体でも50人程度。中島さんの母校の堂崎小学校の新入学児童は今年２人でした。（＊注）

中島／知りませんでした。

市長／私は、人口減少の動向や子どもたちの将来を考えると、小学校の統廃合は、避けて通れないと思います。すでに統合が済んでいる口之津や北有馬の意見を参考にしながら、これからの子どもたちにとってどちらがいいのか、市民の皆さんと一緒になって考えていきたいと思っています。皆さんの子どものことですから、他人事にせず、君たちはもちろん、若い人全員に考えてほしいですね。

＊注 堂崎小学校本校のみ。木場分校を入れると11人。

成人式当日の松坂君。

あなたへの気持ちを込めて はたちの献血

はたちの献血キャンペーン 平成23年 1月～2月

献血は、最も身近なボランティア。
あなたのわずかな時間で、救えるいのちがあります。

問 健康対策課　☎050（3381）5141

成人式の中島さん。
一段ときれいでした。

市で足りないこと

市長／市に足りないことはありませんか？

中島／私は昼間看護学校に通っていて、夜は有明町の医院に研修生として勤務しています。市長とお話ができる、ということで、市の制度も少し勉強したのですが、充実しているのではないかな、と思います。一方でその制度を市民皆さんが知っているのか、というと私なりには疑問があって、制度を知らずに、利用できずにいる人が多いように思います。あと、勉強をして、資格を取りたいと思っても、試験会場が市外になる、ということが少なくありません。市内でも受験できるような仕組みがあるといいですね。難しいとは思いますが…。

松坂／僕からは、もう少し道路整備をお願いします。諫早へ抜ける道はもちろんですが、山間部などもちょっと入ると道路が結構いたんでいるところが多いので。

市長／交通アクセスの問題は、力を入れて頑張っているところです。高規格道路の整備については、県、国に再三お願いしていますが、予算の問題など難しい点も多いのが現状です。

　制度がわかりにくい、とのことでしたので、よりわかりやすい広報を心掛けたいと思います。

市の目指すもの

市長／市で原城などの世界遺産登録を目指していることは、ご存知ですか。

松坂／市が力を入れていることは知っていましたが、正直ピンとこないところが多いです。

市長／一番の問題はそこかもしれませんね。市の登録への取り組みに「何をやっているんだろう」と思う市民は意外に多いものです。今後は「なぜ登録が必要か。登録で市がどう変わっていくのか」を重点的に広報すべきだと考えています。

お土産にブロッコリーをいただきました。
みずみずしくて、とてもおいしそう。

中島／有家に住んでいて、島原に通っているからでしょうか。西有家以遠の町が、実はよくわかりません。それでも合併してからは、原城、日野江城があることや、加津佐の海はきれいなんだよ、なんて友だちに自慢したりするのですが（笑）。

市長／確かに８町が合併して、魅力も８倍に、という気持ちで取り組んでいます。一方で、市民の一体感の醸成は急務です。深江から加津佐までの市民が本当に信頼し合い、力を合わせて大事に臨むとしたら、どんなことでもできる、そう考えています。そしてそれには、君たちの若人の感性と協力が不可欠です。２人とも、これからも頑張ってください。

２人／はい、頑張ります。

対談・成人式を終えて

授業に励む中島さん。夢が叶い、今年の春から准看護師として頑張ります。

　成人式よりも前に、対談は行われました。市長の印象を尋ねると、２人とも声をそろえて「きさくで優しい人ですね」とのこと。もう少し固いイメージだったそうです。

　成人式を終えた中島さんは「友だちが大人びていて、びっくりしました。あと、家族に感謝の気持ちが湧いてきて、ちょっと泣きそうでした」とのことでした。

　親が子を育てることは、当然のことですがそれは「子育てが大変だ」ということとは別の話です。子が親の大変さを思い、その感謝の気持ちが次の子どもを育てる原動力となる。

　成人式自体は「ただの儀式」という人もいます。ですが、この儀式を通して新成人が多くを感じ、今日の思いを糧に社会に羽ばたくとしたら、それはとてもすてきなことですね。